

①令和6年度県食品ロス・食品廃棄物削減優良活動表彰の実施

<目的>

食品ロス・食品廃棄物の削減の取組みを県民運動として一層推進するため、食品ロス等の削減について顕著な功績のあるものに対し、表彰を実施する。

<受賞者(5団体)>

【表彰式】

- ・有限会社中村海産
- ・特定非営利活動法人フードバンクとやま
- ・コミュニティカフェ空満
- ・株式会社IMATO
- ・富山県立氷見高等学校 海洋科学科



②食ロスゼロアクション推進事業

<目的>

家庭での食品ロス削減を推進するため、取組みの動画を活用した普及啓発を実施。

<実施内容>

子育て世帯、共働き世代、若者などライフスタイルに合わせた食品ロス削減の動画を制作し、SNS等でのデジタル広告により啓発・発信
動画再生回数：累計約9.9万回（R7.3月末現在）



③期間間近商品の優先購入キャンペーンの実施

<キャンペーンの概要>

消費、賞味期限の近接した商品の購入が食品ロス削減につながることを消費者に周知し、理解促進を図るため、スーパー等の店頭でポスター、POP等PR媒体を掲示する。

【実施期間】

令和6年10月1日～11月30日（一部、10月1日～28日まで）

【実施店舗】

スーパーマーケット、ドラッグストア、コンビニエンスストア

【PR媒体】

ポスター、POP、のぼり旗、プライスカード用おび、店内放送による啓発



【ポスター】

④「食べきり3015運動」推進事業、食べきりサイズメニュー導入促進事業

<目的・内容>

外食産業における食品ロスを削減するため、宴会等での「食べきり3015運動」を推進するとともに、飲食店における「食べきりサイズメニュー」の導入促進を図る。

<登録状況(R7.1月末現在)>

食べきり3015運動協力店：727店舗

食べきりサイズメニュー提供店：801店舗

【協力店ポスター】



⑤商慣習見直しに係る実務研修会の開催

<目的・内容>

食品流通段階における食品ロスを削減するための取組みを拡大するために、事業者向けの実務研修会を開催。

⑥フードドライブの拡大・定着

<目的>

家庭由来の食品ロスのうち「手付かず食品」の有効活用策であるフードドライブについて、実施団体への支援等により、県民の認知度向上や拡大・定着を図る。

<実施内容>

フードドライブ実施団体への支援（資器材（のぼり旗、コンテナボックス等）の貸出し、食品提供側と受取側のマッチング支援、県HPでのPR）
実施件数：91件（43団体により、15市町村で開催）

⑦フードバンク活動促進事業

<目的>

食品関連事業者から発生する未利用食品の有効活用を促進するため、提供事業者の確保に向けた普及啓発やマッチングの推進を通じて、フードバンク活動の拡大・定着を図る。

<実施内容>

①（一社）富山県食品産業協会にフードバンク活動コーディネーターを配置

②食品提供事業者及び食品提供先への普及啓発、マッチング

食品提供事業者と受取側とのマッチング件数（R7.3月末現在）：47件

⑧「とやまのエコフィード」利用畜産物ブランド化推進事業

<目的>

畜産農家における飼料自給率の向上及び地域内 未利用資源の有効活用を推進するとともに、畜産物の新たなブランド化に取り組む。

<実施内容>

(1)エコフィードの需給マッチングの推進

・新たなエコフィードの発掘

(2)「とやま和牛 酒粕育ち」のブランド化の推進

①「とやま和牛 酒粕育ち」の生産拡大

・R6年度出荷実績 17戸、420頭（R6.4.1～R7.3.31現在）

②販路拡大・PR活動

・名称・ロゴデザイン発表会の開催（R4.7.19）

・飲食店・販売店へのPR

（提供・販売店：飲食店28店舗、販売店12店舗、R7.3.1現在）

・食のイベントへの出展やメディア等を活用したPR活動

R6.10 グルメフードフェス

R7.1～ TVCM放映

R7.1～R7.2 飲食店でのキャンペーン（SNSによる宣伝、抽選で

「とやま和牛 酒粕育ち」の肉やハンバーグ等プレゼント）等



【定義】

①県内で12カ月以上飼育され、最長飼養地を本県とする黒毛和種

②県産の酒粕を出荷前3カ月以上給与

③（公社）日本食肉格付協会の実施する牛枝肉格付規格が4等級以上

【ロゴデザインの意味するもの】

・酒粕を食べて育った和牛をイメージしたシルエット

・原料の酒米の「米」の字を放射線状に配置

・8つに分割された部分は肉の色を表現

・口元の菱形は栄養豊富な酒粕を表現